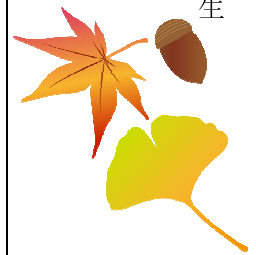


# おかげさまで 国語

題字  
国語部長  
牧野 守先生



岡崎市現職研修委員会  
国語部

令和4年11月8日(火)  
第2号

## 私の読書回顧録

現職研修委員会国語部長 長谷川勝一

令和三年三月に国立青少年教育振興機構が発表した読書に関する調査結果に目を通した。驚くべきことに、調査対象となった五千人全世代の平均で、一か月あたりの読書の冊数(紙媒体)が0冊と回答した割合が、約半数となる四十九・八パーセントであった。昨今の電子書籍の普及も加味すると、これだけではないと思うが、個人的な予想を下回る結果であった。

とりわけ幼少期の読書については、各方面からその必要性が叫ばれている。本調査では、子供の読書量と自己理解力、批判的思考力、主体的行動力の三つの側面との関係

を考察しており、いずれも幼少期の読書量が多いグループに優位性が認められる結果となっていた。自分の幼少期を振り返ってみる。スマホやタブレットも存在しなかった昭和四十年代から五十年代は、余暇の過ごし方として、読書が当たり前に行われていた。小学校に通う私は、学校から帰って日が暮れるまで友達と遊び、夕方からはテレビを見て過ごすという、ごく普通の小学生だった。他と異なる点と言えば、両親が共働きで、帰宅が遅かったことである。夕方五時から時間は、子供向けアニメや特撮ヒーローの番組が目白押し

だった。午後八時になると、これからは大人の時間と言わなければ、番組表ががらりと変わる。ここからが私の読書の時間だった。両親の帰宅は、日によって違いますが、曜日によっては九時半を過ぎることもあった。エアコンがなくても涼しい時代だったので、夏は窓際で、冬は布団にくるまって本を読んだ。私の生家は決して裕福とはいえない家庭だったが、ありがたいことに、読書で親を待つ我が子のために、母は惜しげもなく本を買ってくれた。今でいう、夏の読み物、冬の読み物の案内が配付される時期になると、母はランドセルを空け、頼まなくても全集の購入欄に○印をつけ、代金を入れてくれた。この他にも、読みたいと言えば、月刊誌の定期購読も、夜の本屋で読む本が見つかるまで

待つこともいとわなかった。おかげで、私の幼少期は読書で困ることはなかった。

小学生のころ、よく読んだと思えるジャンルは児童文学だ。洋の東西を問わず、児童向けの文学作品はかなり読んだ。特にアニメ世界名作劇場として放映された「フランダースの犬」、「母を訪ねて三千里」、「赤毛のアン」、「トムソーヤの冒険」などの原作、他にも「十五少年漂流記」、「フアーブル昆虫記」、「シートン動物記」、「三銃士」など、まだまだ挙げられる。内容を全て覚えていくわけではないが、新しい本の表紙をめくることがわくわくしたことが思い出される。当時は、物語のストーリーにひかれ、主人公の心情と自分を重ねながら読み進んだものだ。

名作として扱われる児童文学は各校の図書室にも入庫している。今の子供たちがどの程度借りているかを知る術もないが、長い間、開かれずに並べられているものもあるだろう。私的には、令和の世で再び幼少期の良書として脚光を浴びることを期待したい。

授業力・教師力アップセミナー  
「基礎編」

研修①では、「何のために 何をするか（感想を書かせる）」と題して、山田禮子先生の御指導の下、小学校第二学年の「名前を見てちょうだい」を教材に、音読や感想を書かせる学習の意義について学びました。

また、研修②では「書写の授業の在り方」と題して、実技研修を交えながら、武田玲香先生に毛筆指導のポイントについて教えていただきました。書写の授業におけるチーム学習の方法についても学ぶことができました。

【参加者の声】

・音読の仕方についてのお話がとても印象的でした。「変化を読み取る」ことを意識して感想を書かせていましたが、「何のために」書くのかということが大切だと学びました。

・書写の授業は、教師が実際に書いて見せるものだと思うっていましたが、その必要はなく、点画のつながりや筆順を教え、視点を絞って声をかければよいと知り、心が軽くなりました。

「文集おかげさき」作文審査会

九月十三日（火）、「第二回国語主任会・作文審査会」が総合学習センターで行われました。三年ぶりに、国語主任の先生方が一つの会場に集まり、対面にて作文審査会を開催することができました。小学校一年生から中学校三年生までのグループに分かれ、児童生徒の生活作文を読み合いながら直接意見を交わし、審査を進めていくことができました。

同じ作文を読み、評価については、多くの先生方と意見を交わすことは、「作文を見る目」を鍛えることにつながります。「作文を見る目」は、作文を指導する力になります。おかげさき子が作文を通し、日常の出来事を細やかに見つけ、認識を深めていくことができるよう、これからも作文審査会を大切にしていきたいものです。



作文審査会の様子 児童の作文を読み合い、評価について意見を交わす先生方

「文集おかげさき」第60集  
注文のお願い

文集おかげさき 第60集

多くの購読を

自分の日常に起きた出来事を見つめ、考えを深めた作品など、岡崎市全小中学校の児童生徒の作文・詩・中学生の主張コンクール意見文・市書き初め展入選作品等、優れた作品が数多く掲載されています。

〈価格〉九〇〇円

〈問い合わせ先〉

細川小学校 内藤 利江子

〈注文締切〉

第一次 令和四年十二月九日

第二次 令和五年一月二十四日

岡崎市小中学校書き初め展

優れた諸作品の鑑賞を通して、書写技能を高めることができるように、岡崎市全小中学校の児童生徒の代表作品を展示します。

〈会期〉令和五年

一月二十一日（土）

二十一日（日）

午前十時～午後六時

最終日は午後三時半まで

〈会場〉岡崎市美術館



国語教育自主研修サークル  
「さわらびの会」

十月十二日（水）、総合学習センターにて第二回さわらびの会が行われました。漢字指導の実践発表や、文字指導と語彙指導を合わせて教える必要性、読み書きに困難を抱える発達性ディスレクシアなどについて学びを深めました。

さらに、漢字指導の方法や実態、うまくいった実践を報告したり、悩みを相談したりするグループ交流を行いました。明日からの漢字指導のアイディアをつかむきっかけになりました。



【参加者の声】

・先生方が普段行っている漢字指導をたくさん教えていただき、参加者の私までわくわくしました。明日から、さっそく実践したいと思いました。

・いかに私が作業的に行ってしまっていたかに気付き、反省しました。ただ漢字を教えるのではなく、語彙を増やせるように、今回学んだことを取り入れていきたいです。